

▶ 雪印メグミルクスキー部の創部70周年ファン感謝イベントで、ジャンパーを模した氷のオブジェを囲んで、ファンの皆様と選手が交流しました。

社会の皆様とともに

社会との信頼関係を構築し、 地域に資する活動を

雪印メグミルクグループは社会の一員として、事業活動を通じて社会とよりよい適合を図っています。

北海道地域での活動

北海道包括連携協定

雪印メグミルク、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーは、北海道と包括連携協定を締結し、乳製品製造で培った技術を活かして、ともに北海道の経済活性化に取り組んできました(2007年締結)。

具体的な取組み事項

- ・「酪農」の振興に関する事項
- ・「食」の安全・安心、産消協働*に関する事項
- ・子育てや健康づくりに関する事項
- ・北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項 など

*地域の消費者と生産者が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人、もの、お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図る運動。

赤れんが庁舎前庭での花壇設置(雪印種苗)

「北海道庁赤れんが庁舎」は、北海道を代表する観光スポットです。雪印種苗(株)が中心となって毎年、市内の幼稚園児とともに苗の植え込み作業を実施し、北海道らしさをイメージした花壇を赤れんが庁舎前庭に造成しています。



北海道庁赤れんが庁舎の花壇



園児たちの作業風景

教育事業への参画や協賛

雪印メグミルクは、道内小学校での食育授業や、農業高校やチーズ工房でのナチュラルチーズ製造研修を実施しました。また、北海道農政部の所管事業である「ホッカイドウ競馬」振興をはじめ、協賛活動も積極的に行っています。



講師を派遣し、2016年は大野農業高校、中標津農業高校でチーズ製造に関する特別授業を実施。他に、チーズ工房を対象として自社施設の提供と特別講習を実施しました。

北海道HACCP認証取得

雪印メグミルク(大樹工場、なかしべつ工場、興部工場)は、「北海道HACCP 自主衛生管理認証制度」の認証取得・更新により、道産食品としての安全性確保と信頼性向上を図るとともに、制度の普及に努めています。なお、(株)雪印パーラーでも、HACCPに基づいた衛生管理を導入しています。



北海道総合政策部知事室
広報広聴課 広報担当課長
篠原 結城子様

2007年10月、雪印メグミルクグループ様と包括連携協定を締結して以来、「酪農」や「食」のみならず、「子育て」や「観光」など広範囲にわたる活動を進め、今年で10年目を迎えます。

毎年、赤れんが庁舎前庭に設置し

ていただく花壇は、多くの観光客の皆様に、記念撮影スポットとして大変愛されています。特に昨年は新しい北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」の看板を設置していただき、道内外へのPRに大いにつながりました。

これからも、「その先の、道へ。」へ向かって、お互いのもつ資源やノウハウを活かし、さらに連携を深めながら、協働して取り組んでいけるよう、ご協力お願いいたします。

さっぽろまちづくりパートナー協定

2012年に、「健やかな子どもの成長のためのまちづくり」に取り組むパートナーとして、札幌市と雪印メグミルクは、「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。協定の柱「さぽーとほっと基金」への協力として、2016年も「酪農と乳の歴史館」の入館者「1人につき10円」を寄付し、札幌市の板垣副市長より感謝状が贈られました。



地域の方々とのふれあい

クリスマスイベントを通じて地域社会とのきずなを深めています(磯分内工場)



工場の壁面をいろどるイルミネーション

12月、磯分内工場では工場で生産した生クリームを使って地元のケーキ屋さんによっていただいたケーキを、サンタに扮した工場

長が近隣の保育園と小学校に無償で配布しました。また、クリスマスケーキ教室への生クリームを無償提供したり、工場壁面を使用したクリスマスツリーを模したLEDイルミネーションを飾り、近隣住民と点灯式を行うなど、地域とのふれあいを深める活動を行いました。

職業実習体験(インターンシップ)による学生就職支援を行っています(豊橋工場、大樹工場、いばらく乳業)

豊橋工場、大樹工場、いばらく乳業(株)では、地元の高校生の今後の進路を考えるきっかけ作り、社会人としての

マナー習得を目的として、数日間、原料受け入れや製造の実習を体験していただきました。

スポーツ貢献

▶▶雪印メグミルクスキー部 創部70周年 ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶



1949 北海道選手権大会リレー



菊池定夫のジャンプ

スキ一部
70周年
2016

2000

1990

1998 原田雅彦・岡部孝信・齋藤浩哉〈長野五輪〉国別団体ラージヒルで金メダル獲得
原田雅彦〈長野五輪〉個人ラージヒルで銅メダル獲得

1994 原田雅彦・西方仁也・岡部孝信(当時:拓銀)
〈リッパンメル五輪〉国別団体ラージヒルで銀メダル獲得

1980

1972 青地清二〈札幌五輪〉70m級ジャンプで銅メダル獲得

1960

スキ一部
創部

1946

1956 落合力松〈宮様大会〉5連覇

1958 〈第一回 雪印杯全日本ジャンプ大会〉開催

1962 菊池定夫13戦12勝(全日本2冠含む)の大偉業達成



伊東大貴のジャンプ



2014 ソチ五輪

雪印メグミルクスキー部は、2016年に創立70周年を迎えました。
これを記念して、改めてその歴史を振り返るとともに、これまでの
応援に感謝し、各種企画を開催しました。
これからも雪印メグミルクは、スキージャンプをはじめとするスポー
ツの振興を通じて、社会に貢献してまいります。

名を派遣しました。スキージャンプを初めて見た者も多く、その迫力と雪印メグミルク所属選手の活躍に大歓声が上がりました。

ファンとの交流



9月には、都内ホテルにて「創部70周年ファン感謝イベント」を開催。スキー部(選手、監督、コーチ)と、一般公募で招待した約70名のファンの皆様、約30名の従業員との対話による交流を行いました。

会場では、70周年記念ムービーの上映、選手たちとの記念撮影のほか、雪印メグミルク商品を使用したメニューをはじめとする料理を囲み、会話が弾みました。

ファンの皆様に直接感謝の気持ちを伝え、激励の言葉をいただくことが選手たちの大きな励みになりました。また、ファンの皆様の幸せそうな様子に、従業員たちも雪印メグミルクグループに帰属していることの誇りを感じ、これからのCSRへの志を新たにする機会ともなりました。

社内応援団の派遣



従業員有志による応援団を結成し、「全日本スキー選手権大会」(11月、長野県白馬村)へ約80名、「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」(1月、札幌)へ約30

雪印メグミルク杯

「雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会」は、冬の風物詩として1958年にスタートしました。女子組、ジュニア組、少年組、成年組と、幅広いジャンパーが参加し、本大会で好成績を収め世界に羽ばたいていく選手も多く、「若手ジャンパーの登竜門」として重視されてきた大会でもあります。

1月の第58回大会では、創部70周年記念ブースを設置し、五輪メダル展示などを行うとともに、選手の飛んでいるときの視線で撮影した映像をVR(バーチャルリアリティ)で体感できるコーナーも用意し、来場したお客様にお楽しみいただきました。



よりよい未来へ

平昌オリンピック出場を目指して、日々努力を続けています。
皆様の応援に応えられる選手になります。

雪印メグミルク株式会社 北海道統括支店 北海道スキー部
小林 潤志郎(左)、伊東 大貴(右)



スポーツの楽しさと健康をはぐくむ雪印メグミルクカップ

5月、「第29回サッカーマガジン雪印メグミルクカップ 全国レディース大会」が長野県菅平高原にて開催されました。本大会は女子サッカーとしては日本最大級の大会であり、これまでも日本代表選手を数多く輩出してきました。今年は昨年よりも多い83チーム(約1,500名)が参加し、熱戦を繰り上げました。



レベルの高い試合が繰り上げられました

地域のスポーツ振興を応援しています

2月に京都府宇治市にて、「雪印メグミルクカップ京都少年サッカー支部選抜大会(上級の部)」が開催されました。京都府の各支部選抜の小学6年生14チーム(約350名)が試合に挑み、日ごろの練習の成果を発揮したファインプレーが多く見られました。会場では厳しい冷え込みの中、多くの父兄が選手たちにエールを送っていました。

そのほか、雪印メグミルクの各工場およびいばらく乳業(株)がバレーボールや野球、パークゴルフなどのスポーツ大会を主催し、地域のスポーツ振興に貢献しています。



関西販売本部長より優勝カップを授与

復興支援と災害対策

物資提供～雪印メグミルク、雪印ビーンスターク

4月に発生した熊本地震で被災した方々へ、国(農林水産省)の緊急要請に応じて、日本乳業協会と連携し、雪印メグミルクから常温保存が可能なLL(ロングライフ)牛乳を5,760本と、雪印ビーンスターク(株)から育児用粉ミルク640缶をお届けしました。

また、雪印メグミルクグループ義援金として3,000万円を寄付しました。

2社それぞれに農林水産大臣から
感謝状を授与されました



よりよい未来へ

様々な仕事を通じて識見を高め、さらには仲間とのコミュニケーションを大切にして人望のある人間に成長したい。

雪印メグミルク株式会社 阿見工場 製造課
稲益 伸悟



復興支援(雪印種苗)

雪印種苗(株)では、2013年より、仙台市沿岸部の植栽活動を支援しています。東日本大震災後の海辺に蘇りつ



植栽交流活動の様子と、東北沿岸でよみがえったハマヒルガオの花

つある砂浜植物の種を採種し、自社で苗まで育てた後再び現地に植栽し、“里浜”の自然環境を取り戻す活動を行っています。この方法は、広域ネットワークを用いて里浜を保全・再生する手法のひとつとして、復興工事用地の跡地の生態系保全にも活用されています。



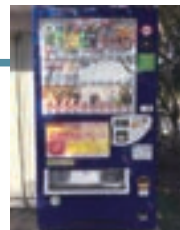
雪印種苗本社での苗づくりの様子

災害救援用自販機(エスアイシステム)

(株)エスアイシステムは、災害救援用自動販売機を共同配送センターに12台設置しています。簡単な操作で機内の商品を取り出せる機能で、災害発生などの緊急事態

に停電が起きた場合でも、近隣企業や住民の皆様へ飲料を配布することが可能です。

川崎センターに設置されている
災害救援用自販機



工場での地域災害対策(なかしべつ工場、名古屋工場、神戸工場)

災害時における避難場所提供、災害応急用井戸水や物資の供給、被害軽減への協力など、地域のニーズに合わせて各工場で協定を締結しています。

3月、神戸工場は、神戸西消防署と合同で特殊災害対応訓練を実施しました。協力会社を含め雪印メグミルク側から68名、消防署から27名と、消防車両4台が参加し、近隣の防災福祉コミュニティからも見学者が訪れました。合同訓練は、工場の防火防災活動を見直す良い機会ととらえ、これからも積極的に参加してまいります。



1名が逃げ遅れた想定で、従業員による避難誘導や消防への通報、工場の自衛消防隊と消防署救助隊による合同放水訓練などを行いました。

文化振興の活動

雪印メグミルク 夏休みファミリーミュージカル

8月、夏休みイベント「雪印メグミルク 夏休みファミリーミュージカル」を開催しました。子供たちの身体の健康のみでなく、心のすこやかな成長にも貢献したいとい

う願いから、1985年より毎年大阪で続けている社会貢献活動です。

今回は従来よりも公演回数を1回増やして4回公演とし、合計約2,600名のお客様が来場され、会場は熱気に包まれました。



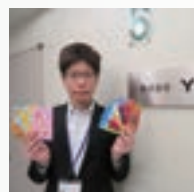
出演者との記念写真撮影も行い、子供たちは目を輝かせていました。夏休みの楽しい思い出づくりにお役に立てたことが、スタッフ一同、何よりの喜びです。

32年間続くミュージカル、2016年も
約2,600名が夢と感動に包まれました

よりよい未来へ

雪印メグミルクの自動販売機のスペシャリストを目指して頑張ります。
自販機の悩み相談、お伺いします！

株式会社YBS ビジネスサポート事業部 牛乳販売店サポートグループ
矢部 太一



知識・技術の社会還元

6次産業化支援活動(ニチラク機械)

ニチラク機械(株)は、牛乳・乳製品をはじめとする食品製造機器の製造およびプラントエンジニアリングを行う会社です。

昨今、「六次産業化法」の施行(2011年)により、小規模の酪農家が生乳生産から加工までを行い、最終商品を作って販売することが奨励されています。牛乳・乳製品の需要拡大による間接的な酪農への貢献とともに、酪農家や教育・研究機関への「チーズを代表する乳製品の製造

技術」を提供することも大きな貢献と考え、ニチラク機械(株)はこうした酪農家に対して、小型チーズバットなどの製造機器の提供や技術指導を行っています。お客様のご要望を聞き、関連法規も踏まえながら全体プランを提案することから始まり、設計、施工、試運転に加え、製造作業の現場指導までをセットで提供しています。経験豊富なシニア人材を筆頭に、技術相談に対応できる体制を整え、全国のチーズ工房や酪農家・酪農団体の皆様へ継続的な支援を行っています。



チーズ製造研修での指導の様子



ニチラク機械の手掛けた小規模チーズ製造室

6次産業化関連のプラント受注件数

2016年度 **11** 件

小型チーズバットを使用したチーズ製造研修を全国で実施

2016年度 **12** ヶ所で **17** 回開催

大学でのチーズ講座(チェスコ)

6月、東京農業大学「食と農」の博物館において、「NPO 法人良い食材を伝える会」が主催する公開講座が行われ、チェスコ(株)の技術顧問が「国産チーズ、今むかし」と題し、受講者30名に、日本人のチーズ受容の歴史、日本人の嗜好の特徴、国産チーズのおいしさなどについて、小淵沢チーズ工房(雪印メグミルク チーズ研究所)のチーズの試食を含めて90分の講演を行いました。



よりよい未来へ

現在行っている母乳調査の結果を活かし、赤ちゃんとお母さんに一番母乳に近いミルクを届けたい!

雪印ビーンスターク株式会社 商品開発部 シーズ研究グループ
小林 俊二郎





コーポレート・ガバナンス

責任ある経営と ステークホルダーからの 信頼のために

雪印メグミルクグループ行動規範および行動基準

「雪印メグミルクグループ行動規範」は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていく上での行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的に示して、遵守すべき事項を取りまとめたものが、雪印メグミルクグループ

の各社が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの全役員・従業員は行動規範と自主行動基準をすべての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切にし、誰からも信頼されるように行動します。
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行います。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通して、社会貢献と環境保全に取り組めます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくりまします。

2つの事件

雪印乳業食中毒事件

雪印乳業(株)大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。2000年6月27日、大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株)大樹工場で発生した停電事故により、製造された脱脂粉乳が汚染され、それを原材料として製造した脱脂粉乳を大阪工場で低脂肪乳などの原料として使用していたことが分かりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって、社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えました。

雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を国産牛肉と偽って申請し、交付金を不正に受給した詐欺事件。2002年1月23日の新聞報道で表面化しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。



2014年、2016年に発行した社史に、2つの事件の詳細を記載しています。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動

～雪印の事件を風化させない～

「雪印乳業食中毒事件」と「雪印食品牛肉偽装事件」を風化させることなく教訓とし、食に携わるものとしての責任を強く認識するための活動を、2つの事件が発生した6月と1月に毎年実施しています。

6月には、近畿圏の得意先担当者、大樹工場の酪農担当者などが当時の経験談を語る、パネルディスカッションを実施しました。1月には、「人と組織と社会の幸せを実現する倫理」と題し、東京工業大学の札幌教授に講演いただきました。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動

2004年からスタートして **13** 年、
27 回目



全国のCSRリーダー、グループ会社および本社の役員を中心に230名が参加し、意見交換しました。

CSRグループ活動

雪印メグミルクでは、企業の社会的責任について理解を深め、行動につなげていく話し合いの時間として、「CSRグループ活動」を2003年から続けています。職場単位で毎月実施され、雇用形態に関わらず、全従業員が参加しています。

行動基準の読み合わせを毎回行い、コンプライアンス意識の強化を図るほか、企業理念の理解、職場でのCSR推進といった月ごとのテーマについて話し合っています。

「雪印乳業食中毒事件」と「雪印食品牛肉偽装事件」が発生した6月と1月には、原因や経緯を振り返り、当時の報道映像を視聴することで、食に携わる者としての責任感と倫理観を新たにしています。



事件後に入社した従業員が過半数を超えた今、全社統一の活動としてますます貴重な機会となっています。



コンプライアンス研修でのグループ討議(いばらく乳業)

CSRグループ活動

2003年からスタートして **14** 年目

多様な価値観や異なる意見に耳を傾けることの実践や、職位や立場を超えた交流といった副次的な効果もあり、日常の業務とは違った、組織活性に有効な場としても機能しています。

また、グループ会社でも、コンプライアンスを中心に各社の必要性と課題認識に合わせて独自で企画した活動を行っています。

宣誓書の提出

雪印メグミルクの全役員・従業員は、「雪印メグミルク行動基準」を遵守する意思表示として、毎年10月に宣誓書に署名し、社長に提出しています。社長も署名を行い、CSR担当役員に提出します。



代表取締役3名の宣誓書

よりよい未来へ

コツコツと知識と技術を磨き続けて、製造部門からも品質部門からも頼られる品質のプロでありたいです！

雪印メグミルク株式会社 福岡工場 品質管理課
中村 湧



コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

雪印メグミルクは、経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。

この基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの強化に積極的に取り組み、株主の皆様をはじめとした全てのステークホルダーに対する責任を全うしていきます。

なお、雪印メグミルクは取締役会の監督機能の強化および業務執行の機動性向上を目的に、監査等委員会設置会社を採用しております。

● コーポレート・ガバナンスに関する報告書

国内証券取引所の規則に従い作成している雪印メグミルクのガバナンス全般にかかる報告書で、「コーポレートガバナンス・コード」の各原則に対応した形で、雪印メグミルクのコーポレート・ガバナンスの体制、対応状況などを記載しています。



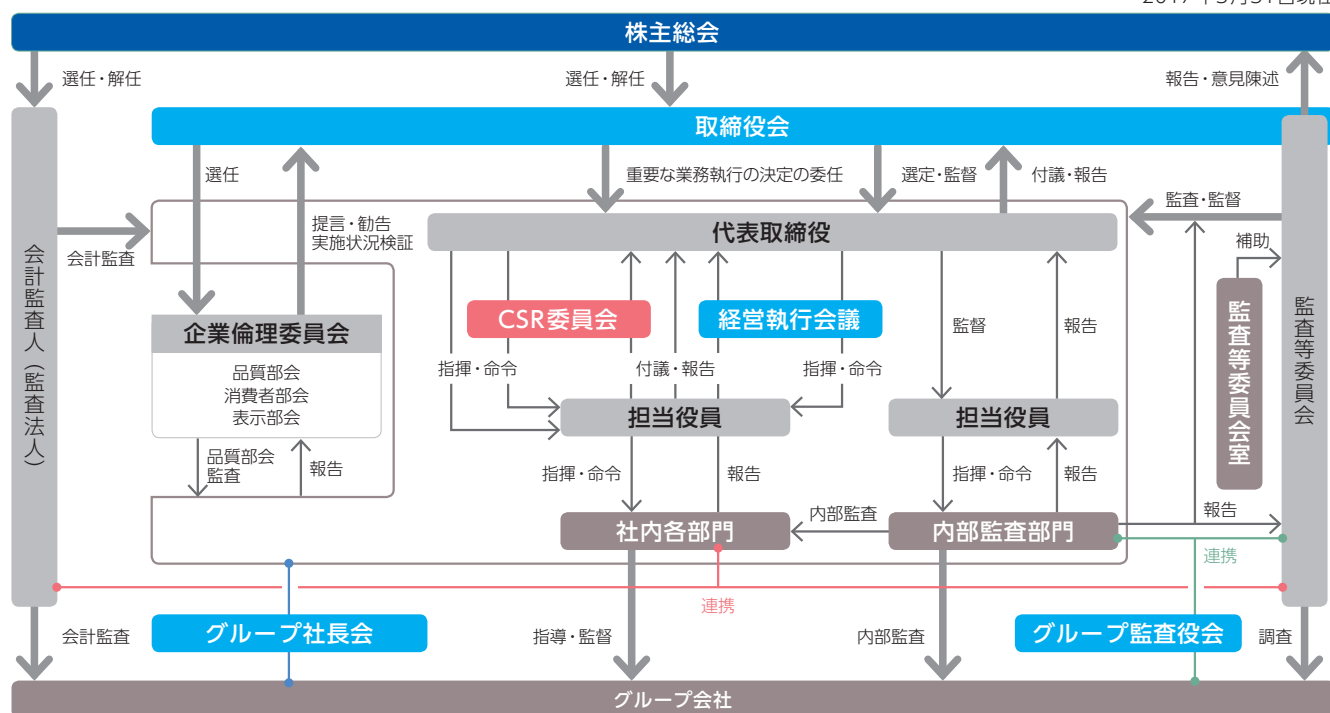
コーポレート・ガバナンスに関する報告書
<http://www.meg-snow.com/ir/governance/pdf/governance.pdf>



コーポレート・ガバナンスに関する基本方針
<http://www.meg-snow.com/ir/governance/>

コーポレート・ガバナンス体制図

2017年3月31日現在



よりよい未来へ

みちのくミルク株式会社 本社工場 製造課
山田 亮

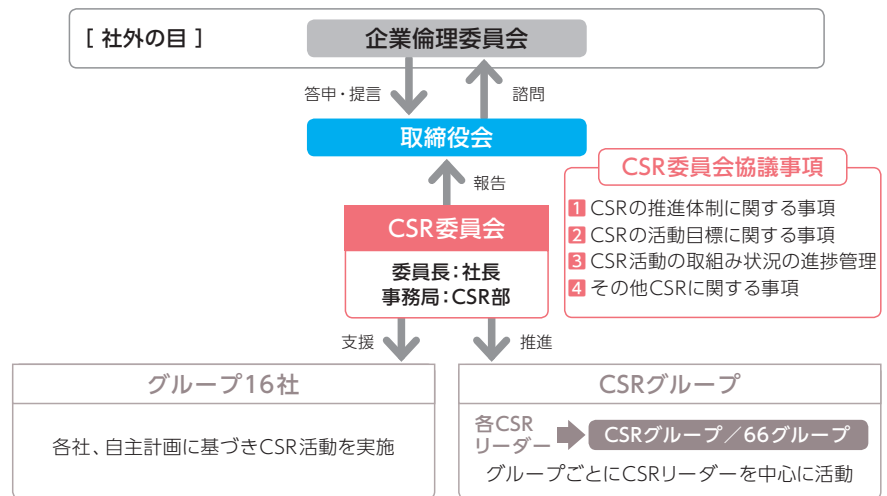
考えをしっかりと行動に移せ、職場内で頼られる存在。どんなことも笑顔で乗り越えられる人間になりたい。



CSR推進体制

雪印メグミルクグループでは、CSRを推進するための経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。社長が委員長を務め、全常勤取締役およびCSR部長を委員とし、原則年2回開催しています。

CSR推進体制図



各部署に配置されているCSRリーダーが、CSR活動を推進しています。



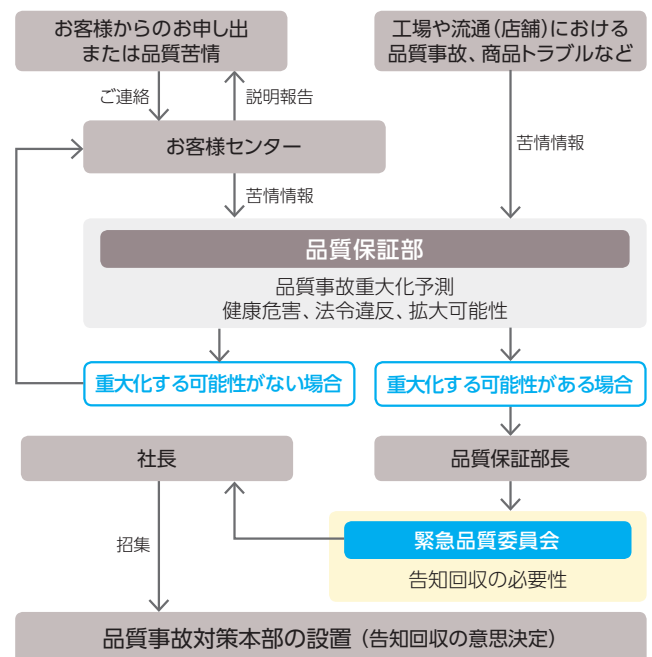
危機管理体制

雪印メグミルクは、商品の事故に迅速・適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。

日々のお客様からのお申し出から入手された商品の品質に関わる情報や、工場・店舗からの苦情情報は、品質保証部に伝えられます。健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があるとは判断された場合には、緊急品質委員会を開催し、事実関係を調査把握し、速やかに必要な対応を講じます。委員会での検討の結果、新聞などへの告知回収など、会社経営上の速やかな決断が必要な場合は、社長を対策本部長とする品質事故対策本部を設置し、対応します。

また、雪印メグミルクは、グループ全社のリスクとトラブルの管理および対応を行うために、社長、副社長、監査等委員、総務、品質保証、CSR、広報IR、人事の担当役員および担当部署の長をメンバーとする「リスク連絡会」を原則毎週、本社で開催しています。商品の品質以外も含めた広範なトラブル、リスク案件について、情報の迅速な共有化を図るとともに、リスク案件への対応のチェックを行います。

危機管理体制（品質事故対応）



企業倫理委員会

企業倫理委員会は、取締役会の諮問機関として2002年に設立され、社外有識者、労働組合代表および社内委員によって構成されています。定例委員会を毎月開催し、経営全般に対する「社外の目」による提言と検証を行い、企業活動に活かしています。

第8期企業倫理委員会・
専門部会委員一覧

PAGE
63



諮問に対する提言と2016年度の主な取組み

諮問内容1 消費者重視経営に関すること

提言	取組み
1.重要なステークホルダーである消費者との対話（ダイアログ）の場を充実させましょう。	・企業倫理委員会消費者部会 (P.54) ・お客様モニター (P.24)  お客様モニター
2.引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実に応えていきましょう。	・お客様満足向上ミーティング(P.26) ・お客様モニター、消費者部会でいただいたご意見を社内へ共有 (P.24, P.54) ・読者アンケート結果を反映した「CSR活動報告書2016」の発行 ・SNSサイト(Facebook公式ページ)での情報発信 ・ホームページデザイン改訂による利便性向上と「よくいただくご質問」の充実 ・お客様の声にお応えした事例をホームページなどで開示  CSR活動報告書2016
3.商品の表示や広告などでは、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断し、消費者に誤認や誤解を与えないよう、正確に表現しましょう。	・企業倫理委員会消費者部会、表示部会 (P.54) ・リーガルチェック体制 (P.54) ・お客様センターにいただいたご意見を社内イントラネット「お客様の声」で共有  イントラネット「お客様の声」

諮問内容2 「食の安全・安心(品質管理)」「企業倫理(コンプライアンス)」の徹底に関すること

提言	取組み
1.従業員一人ひとりの製造技術、保全技術、衛生管理、検査分析技術のレベルアップのため、工場での後継者育成を見据えた教育・研修を充実させましょう。	・工場従業員を対象とした衛生教育 ・各技術ごとの研修体系に沿った研修
2.品質トラブルおよび品質苦情を従業員で共有し、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。	・企業倫理委員会品質部会(P.54) ・品質トラブルの原因・対策事例、品質課題の進捗などの情報を工場間で共有
3.5S [*] は品質管理の基本であり、5Sガイドラインの内容にそった活動を全員参加で継続して取り組みましょう。 ※ 整理・整頓・清掃・清潔・しつけの頭文字	・新たな5S基準を用い、工場による自主点検を本社スタッフがサポート ・品質部会で指摘された事項の改善状況や、委託先の5Sを品質保証部監査で確認
4.「雪印メグミルク行動基準」について、全役員・従業員が理解を深め、実践していきましょう。	・CSRグループ活動(P.49)

諮問内容3 企業風土および組織・人材の活性化に関すること

提言	取組み
1.社内のコミュニケーションを深めるように意識し、工夫しましょう。	・役員と従業員の対話(「役員キャラバン」の実施、研修での意見交換) ・「チームワーク強化費用」により、部署内の円滑なコミュニケーション醸成を支援
2.一人ひとりが積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある職場をつくっていきましょう。	・労働生産性の向上と業務改革(P.58)
3.すべての従業員が生き生きと活躍できるよう環境を整備し、ダイバーシティを推進していきましょう。	・女性活躍推進(P.55) ・人材育成(P.59) ・多様な人材の就労環境の整備(P.57)

諮問内容4 その他、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)に関すること

提言	取組み
全役員・従業員が雪印メグミルクグループ企業理念の実現と、CSRの確立に向け、行動していきましょう。	・CSRグループ活動(P.49)



CSRグループ活動

企業倫理委員会 定例報告事項

- ・CSR委員会、専門部会、お客様モニター実施内容
- ・苦情分析対応
- ・広報概況(情報発信内容、お客様センター入電概要、マスコミ報道概況)
- ・CSRグループ活動実施内容
- ・ホットラインの通報および対応の状況

専門部会

企業倫理委員会は、毎月の定例委員会のほかに、3つの専門部会での活動を行っています。

第8期企業倫理委員会・
専門部会委員一覧 ▶

PAGE
63

品質部会

工場の品質管理向上のため、品質・衛生管理の専門家である社外委員が工場での監査や意見交換を行っています。指摘事項に対して、工場は改善策を立案・実施し、企業倫理委員会へ報告します。

2016年度は、全国11工場にて監査を実施しました。



消費者部会

消費者団体の代表者や消費者問題に関する有識者の皆様に雪印メグミルクグループの取組みを紹介し、消費者視点での評価と意見をいただいています。

2016年度は、関東、関西で計4回実施しました。関東では阿見工場の新しい見学施設(P.24)をご覧いただいたあと、「当社が社会の課題にいかに対応できるか」というテーマで意見交換しました。また関西では、食育活動やお客様対応についてご意見を頂戴しました。



企業倫理委員会消費者
部会に参加いただいている
主な団体一覧 ▶

PAGE
63

表示部会

消費者にとって重要な情報源である商品パッケージ表示に関して、雪印メグミルクの自主基準との整合性や、誤認・誤解を与えない適切な表示かどうか、消費者視点に立ち厳しいチェックを行っています。

また、社会のトレンドにも留意しながら、必要に応じて自主基準の見直しも行っています。

2016年度は、8回の部会を開催しました。



法令チェック体制

雪印メグミルクは、CSR経営のベースであるコンプライアンスを徹底するため、また、会社の重要な資産である知的財産を保護し、他者の知的財産権を尊重するため、リーガルチェック体制を整えています。

そのため、社内システムを構築し、表示関連法規や景品表示法、知的財産関連法規などの各法令の担当部署が、

迅速かつ確実に商品パッケージ表示や広告宣伝物の確認作業を行えるようにしています。

また、個人情報の取扱いについても、「個人情報保護方針」および社内ガイドラインに則り、紛失や改ざん、漏えいなどを防止し、適切に管理する体制を整備しています。



人材の多様性確保と働きやすい環境の整備

それぞれの個性が創りあげる
価値を力に

女性活躍推進

雪印メグミルクグループは、性別、年齢、国籍、価値観など様々な背景を持つ人が、それぞれの多様性・個性を認め、尊重し合い、それを活かしながら、相乗効果(シナジー)を発揮し、活力ある、生産性の高い、成長し続ける組織へと、変わっていかねばなりません。現在、人材の多様性確保の中核に女性活躍推進を位置づけ、能力を発揮するための環境づくりに積極的に取り組んでいます。

雪印メグミルクグループ「女性活躍推進」宣言

「女性活躍」を企業戦略として推進します。

社会の環境変化に伴い、食品市場においては、あらゆる年齢・ライフステージにある多様な、変化し続けるニーズ・価値観をスピーディに捕まえていくことが求められています。食品市場に向き合い、「消費者重視経営の実践」を実現していくためには、女性社員の力を活かすことが不可欠です。雪印メグミルクグループは、「人材の多様性の確保」の中で中核となる「女性活躍」を企業戦略として推進します。

女性社員が主体的に行動し、影響力を発揮できる会社に変えていきます。

「女性活躍」の阻害要因となっている性別役割分担意識などを変革し、女性社員が、結婚、出産、育児などのライフイベントを乗り越えて、意欲と能力に応じて様々な業務で活躍できるように取り組みます。そして、女性社員が生き生きと主体的に行動し、影響力を発揮できる会社に変えていきます。

長時間労働を是正し、ワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整えます。

長時間労働を前提とする働き方は、女性社員に限らず育児、介護を抱える社員にとって大きな負担となっています。労働生産性を向上させ、仕事上の責任を果たしながら、一人ひとりがワーク・ライフ・バランスを実現できる環境を整えます。

行動計画の実現に向けた具体的施策

行動計画(全文)は巻末「補足資料(P.63)」に掲載

雪印メグミルクは、「人材の多様性の確保と能力を発揮するための環境づくり」に取り組んでいます。その中核となる女性の活躍推進のための行動計画を策定し、実現に向けた具体的な行動を推進していきます。

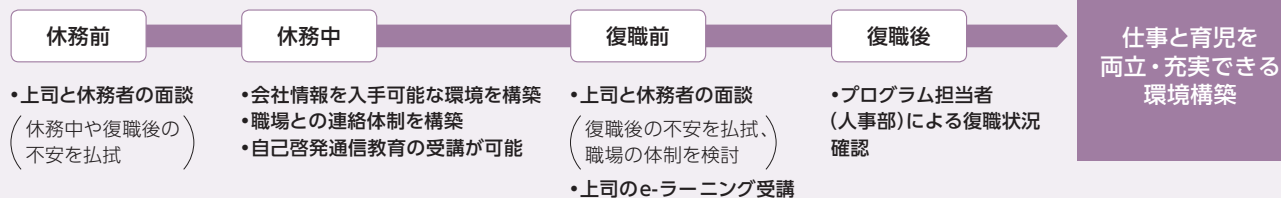
【主な取組み内容】

取組み1：仕事と育児の両立を支援

出産・育児と仕事を両立できるよう支援するために、様々なプログラムを提供しています。女性だけでなく男性の

育児休職者も利用可能です。上司や職場と連携しながら、仕事と育児を両立できる環境づくりを構築しています。

育児休職者両立支援プログラム



取組み2：計画的な人材の育成

女性社員が自身のキャリア形成に対する意識を醸成するための研修として、職級に合わせた「女性リーダー研修」「女性リーダーチャレンジ研修」を実施しています。

研修対象者は、キャリアビジョンの実現に向け主体的に行動することへの意識づけや、リーダーが必要とするスキルの習得を目的として受講しています。また、キャリアアップへの不安を軽減するために、先輩社員との意見交換や社内のネットワークの構築を行います。

女性経営職比率目標

5年後 (2021年3月31日時点) **5%**
10年後 (2026年3月31日時点) **10%**
(参考) 2017年3月現在 2.6%



取組み3：女性活躍推進に対する意識の醸成

社内イントラネットや社内報を通じた女性活躍推進やワーク・ライフ・バランスなどに関する情報発信を行い、女性活躍推進に対する意識醸成、制度などの理解へつなげています。

● 役員インタビュー

役員と女性社員が女性活躍推進に関する対話を行い、その内容を社内イントラネットで定期的に発信することで、意識醸成を図っています。



会社の持続的成長のため、社員一人ひとりが能力を発揮できる環境を作ることが女性活躍推進の真の目的であることや、自分なりの活躍の姿を考えて主体的に行動して欲しいといった、各役員からのメッセージを発信しています。

【社内イントラネット】

イントラネットに専用サイトを設け、女性活躍推進に関する取組みレポート、制度紹介などの情報発信を行っています。

コンテンツ

- ・取組みレポート(研修報告など)
- ・私たちが考える“ジョカツ”
(役員インタビュー、社員・イクメン紹介)
- ・育児休務者両立支援プログラム
- ・人事制度(結婚・出産・育児関連)



【社内報】

年4回発行の社内報で、女性活躍推進における代表的な取組みを掲載しています。



多様な人材の就労環境の整備

雪印メグミルクグループでは、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な人材の活躍の場を提供し、就労環境の整備と雇用促進を図っています。

【シニア社員制度の拡充】

雪印メグミルクでは、60歳定年退職後に再雇用を希望する社員については65歳までの再雇用を可能とする、「シニア社員制度」を導入しています。

シニア社員についても、成果を適切に評価し、モチベーション向上につなげるため、人事評価を行っています。

2017年4月に、ライフスタイルの変化に合わせて短縮勤務を希望するシニア社員にも活躍の機会を提供できるよう、「パートタイムシニア社員制度」を新設しました。

【障がい者雇用の促進】

雪印メグミルクでの障がい者雇用率は1.8% (2017年3月現在)で、法定雇用率の達成に向けて継続的に採用活動に取り組んでいます。

また、(株)YBSでは、各事業所において近隣の特別支援学校と連携し、定期的な情報交換、両者のニーズのマッチングを行いながら、2012年度より知的障がい者インターンの受入れを行っています。その成果として、2015年度より採用を開始し、2016年には法定雇用率2.0%を達成しました。環境整備や設備保全など、一人ひとりの特性に応じた業務を任せるとともに、無理なく職域拡大できるよう、安全で働きやすい職場環境の整備とノウハウの蓄積に取り組んでいます。

よりよい未来へ

「働くお母さん」として仕事に育児に大奮闘★雪印メグミルクブランドと私たち、お母さんパワーでさらに広がる可能性！

雪印メグミルク株式会社 野田工場 工務課／製造二課
奥田 みどり(左)、猪狩 美咲(右)



多様な働き方

従業員の多様な働き方を支援するため、新制度の導入や改正を積極的に進めています。

【ジョブリターン制度：利用条件緩和】

2016年、家庭の事情などで退職した社員の再雇用を可能とする「ジョブリターン制度」の条件を緩和する改正を行いました。これにより、退職の理由や回数、退職後の経過年数に関わらず、正社員を含めた様々な雇用形態に再びチャレンジすることを可能としました。

【地域限定社員制度：経営職への適用拡大】

人材を確保し、多様な働き方を支えるため、従来より地域限定社員制度を設けています。本人の申請を受け、一定の条件を満たす場合には、転宅を伴わない範囲内での転勤に限定する制度です。

2016年に制度改正を行い、一般職のみでなく経営職でも本制度を利用できるようになりました。これにより、育児や介護などで転宅が難しい社員でも、経営職登用にチャレンジできるようになりました。

労働生産性の向上と業務改革

多様な人材が活躍するためには、限られた時間の中で効率的に業務を遂行できるよう働き方を変革し、育児や介護などで時間に制約のある従業員でも最大限能力を発揮できる風土へと変えていくことが不可欠です。雪印メグミルクでは、2016年度から「タイムマネジメントの強化」と「業務効率化」を中心に、慣習にとらわれない工夫・改善により、職場環境づくりと従業員一人ひとりの意識醸成を積極的に推進しています。

【タイムマネジメントの強化】

長時間労働を前提とした働き方の変革に取り組んでいます。

(例)

- ・ パソコンのログオン／ログオフ時刻の記録を活用することで、自らの労働実態を上司とともに把握し、職場における業務効率化などの取組みやタイムマネジメントに対する意識を向上
- ・ 部署単位での時間外労働状況の分析と削減目標の設定

4年後（2019年度）の時間外労働目標

目標 **20**%削減

1年後（2016年度）の時間外労働実績

実績 **11.6**%削減

2015年度上期の月平均対比

【業務効率化】

管理プロセスの簡素化や業務の効率化などを通して、労働生産性の向上と時間外労働削減を図っています。

(例)

- ・ 社内決裁などの権限規定の見直しや、報告資料の削減などによる管理プロセスの簡素化
- ・ 会議体の集約や廃止、運営方法見直し
- ・ 全支店・営業所へのテレビ会議システムの設置と活用促進
- ・ 電子稟議システムの拡充による効率的な決裁手続き
- ・ 部署内業務の定期的な棚卸しと分担の見直し
- ・ 業務の個人集中を回避するためのマニュアル化や情報共有、部署全体のスキルアップ

労務管理ルールの遵守状況を調査したところ、「部下との対話を通じた業務上の改善事項の確認」など、すべての項目において「適切に実施」「ほぼ実施」の割合が9割を超えました。

よりよい未来へ

労働生産性の向上を通じて「仕事」と「生活」を両立し、社員が生き生きと働いている会社であってほしい。

雪印メグミルク株式会社 総合企画室
鍵水 一房



【現場での取り組み事例】

神戸工場では、女性でもバルブの締め付けが強く出来るようにレバーを長くする、マンホールや頭上のバルブを閉める作業を安全に行うための改善、台の設置やリフター導入など重量物を扱い易くするための工夫を行い、腕力の弱い女性でも無理なく作業できる態勢を順次整えました。

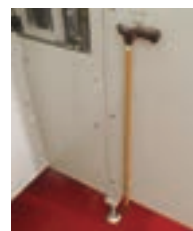


台を設置し、作業の安全性を向上しました。

また、阿見工場では、手の不自由な方にも使いやすいよ

うにトラブル対応用の道具を軽量化したり、男性が主体的に作業する領域を女性に体験してもらい、意見を反映することで女性でも作業できる環境に改善しました。

いずれの工場でも、作業負担が軽減されることで全員の働きやすさへの一助となると同時に、職場のメンバーのために何ができるか、という一人ひとりの心配りが、チームワークの強化、個々のモチベーションアップにつながっています。



機器下部に入ってしまった物を取り出す道具。ステンレス製の棒から杖に変更したことで、軽量化により片手でも作業が楽にできるようになりました。

人材育成

基本方針

「雪印メグミルクグループの持続的成長を支える人材の育成」「個人の能力開発を通じた社員一人ひとりの自己実現」「人材の多様性の確保」のために、グループとして人材育成に向けた各種施策を強化しています。具体的には、OJTを基本とした個々人の計画的育成・キャリア支援に加え、求められる行動・スキル・知識の視点から新たに体系化された階層別研修や専門研修を展開します。これらに

より、グループ経営の次世代を担うリーダーとしての人材を育成していきます。

重点取り組み内容～階層別研修

- ① 習得すべきスキルの体系化と研修プログラムの再編
- ② 中堅社員向け研修の充実
- ③ 経営職向け研修の充実

研修体系 階層別研修／通信教育・e-ラーニング

区分	役職 職級	階層別研修	新設研修	通信教育 e-ラーニング
経営職	所属長			
	課長	マネジメント強化研修		
	新任経営職	新任経営職 新任経営職研修 (フォローアップ)		アカウントティング応用 タイムマネジメント
一般職	6級	6級昇級時研修	女性リーダー研修 女性リーダー チャレンジ研修 ・基本研修 ・フォローアップ研修	
	5級	5級昇級時研修		プレマネジメント ※6級昇級要件
	4級	4級昇級時研修		ロジカルライティング/ スピーキング ※5級昇級要件
	3級	3級昇級時研修		
	2級	新入社員研修	工場実習	アカウントティング基礎 ※3級昇級要件
	1級	酪農研修	2年目 フォローアップ研修	



酪農研修(新入社員)



自己啓発通信教育講座のウェブ案内画面

よりよい未来へ

人材開発の業務経験を活かして、10年後は営業現場で「人づくり」を通じ、最強のチームをつくりたいです。

雪印メグミルク株式会社 人事部 人材開発センター
辻 真樹



社内アイデア募集システムによる多様な価値観の活用

雪印メグミルク社内で2015年7月にスタートしたアイデア募集システムには、商品を中心とした様々なアイデアが累計1,050点投稿されています。

2016年度は、新商品発売に貢献した投稿者6名に対して表彰を行いました。すべての従業員が商品開発への参加意識を持つよう働きかけるとともに、多様な価値観や発想を広く取り入れることで、メーカーとしての成長基盤強化の一助としています。

アイデア投稿数
累計 1,050 点

2015年7月スタート時から2017年3月末日まで



アイデア募集システムの画面



6名の投稿者が表彰されました



アイデア募集システムが発売に貢献した
2016年度の新商品および改良品

従業員の人権確保

内部通報制度「ホットライン」

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグホットライン」と社外通報相談窓口「社外(弁護士)ホットライン」を併設しています。

いずれも、法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども、制限を設けず受け付けています。通報に対しては、プライバシー保護に配慮し、調査および対応を行い、また、機会あるごとにホットラインの活用を呼びかけています。

ホットライン通報件数 ▶ PAGE 64

ハラスメント防止のための啓発

一人ひとりの人権を尊重し、相互理解のもとで日常業務を進めるため、継続的にハラスメント防止に向けて取り組んでいます。

2016年度は、雪印メグミルクの階層別研修や新任経営職研修などにおける啓発活動に加えて、グループ会社で開催される研修への講師派遣を行ったほか、マタニティハラスメント関連の法改正情報をまとめた「CSR情報かわら版」を雪印メグミルクグループ全社に配布することで、改めて意識づけを行いました。

よりよい未来へ

一人ひとりが責任感を強く持ち、今よりももっと社員の満足度が高い会社になってほしい。

雪印メグミルク株式会社 北海道統括支店 北海道乳食品課
木下 円花

